

節目の年

松原剣道

中学一年

村上

環

「宣誓」体育館に響きわたる私の声。去年

から今年にかけて、剣道を通し、私ほ様々ほ

節目に立ち会っている。

私が小学校六年生のころ、大会で宣誓をす

ることになった。その大会はちようど六十周

年を、迎えていたのだ。節目の年で、本当に

私が宣誓をしてもいいのか、あまりやりた

くない、というネガティブな気持ちにはなっ

ていた。しかし、今まで共に剣道にほげんで来

た先生方や先輩方、多くの仲間達に応援され

本番に臨むことができた。いざ皆の前に立っ

てみると、会場が静まりかえったところ、私

だけの声。自分の心臓の音が聞こえるくらい

緊張し、頭が真っ白になりそうだった。だが

これまで宣誓をしてきたたくさんさんの先輩方

は、たくましい次世代に近づけるよう、今まで

きた練習の成果を全て発揮することほできた。

次に今年に入ってから話だ。私が所属し

ている松原剣道が、五十周年を迎えたのだ。
とても嬉しいことだと思おう。その瞬間に立ち
会うことができ本当に嬉しく思う。人生で二
度目の入魂式や松原剣道の祝賀会があり、
本当に貴重な体験をさせてもらったのだ。手
た、今年卒団される先輩方が来てくださり、
少し悲しい気持ちもあるが、楽しい時間を過
ごすことができた。

そして最後に、スポーツ少年団をやめたこ
とだ。元々松原剣道は、松原剣道スポーツ

少年団という名前だ。だが、スポーツ少年
団を抜けて、松原剣道という名前で活動可
ることになった。手ぬぐいの文字や団旗、
シャツの文字を変え、松原剣道としてこれか
ら先輩方が紡いできた伝統と歴史を、私達が
次の世代につはいでいきたい。
これら3つの節目を経験し、立ち戻れたこ
とは本当にありがたいことだと思おう。選手宣
誓は、当時だとあまり何も感じなかったが、
今思うと皆の代表として宣誓をしたことで、

人前に立ち話をするのが嫌ではなくなつたの
だ。また五十周年記念の行事をいくつも経験
したことで、五十周年という歴史のあじさや
大切さを学ぶことかできたように思う。これ
らは全て今までお世話になつてきた先生や先
輩のおかげだと感じている。そのため、ぜひ普
段の生活でも生かしていきたいと思う。また
これからも一年一年の節目を大切にしてい
きたい。